

2020年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年1月14日

上場会社名	and factory株式会社	上場取引所	東
コード番号	7035	URL	https://andfactory.co.jp/
代表者（役職名）	代表取締役社長	（氏名）	青木 倫治
問合せ先責任者（役職名）	取締役	（氏名）	蓮見 朋樹
四半期報告書提出予定日	2020年1月14日	配当支払開始予定日	—
四半期決算補足説明資料作成の有無	： 有		
四半期決算説明会開催の有無	： 無		

（百万円未満切捨て）

1. 2020年8月期第1四半期の業績（2019年9月1日～2019年11月30日）

（1）経営成績（累計） （%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第1四半期	802	70.9	37	△12.3	36	△1.6	19	△20.9
2019年8月期第1四半期	469	—	42	—	37	—	25	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年8月期第1四半期	2.05	2.02
2019年8月期第1四半期	2.70	2.56

- （注）1. 当社は、2018年8月期第1四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2019年8月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。
2. 2019年8月期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社株式は2018年9月6日に東京証券取引所マザーズ市場に上場したため、新規上場日から2019年8月期第1四半期累計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。
3. 2019年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、2019年8月期第1四半期累計期間の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年8月期第1四半期	3,054	1,830	59.9
2019年8月期	3,040	1,798	59.1

（参考）自己資本 2020年8月期第1四半期 1,829百万円 2019年8月期 1,798百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年8月期	—	—	—	—	—
2020年8月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年8月期の業績予想（2019年9月1日～2020年8月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,999	53.2	580	13.2	560	15.7	390	18.9	41.08

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年8月期1Q	9,744,720株	2019年8月期	9,494,640株
2020年8月期1Q	189株	2019年8月期	189株
2020年8月期1Q	9,678,635株	2019年8月期1Q	9,305,620株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 当社は、2019年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2019年8月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、2019年8月期1Qの期中平均株式数(四半期累計)を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報)	11
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社の主要な事業領域である電子書籍市場については、インプレス総合研究所の「電子書籍ビジネス調査報告書2019」によれば、2018年度の電子書籍市場規模は2,826億円で、前年度の2,241億円から26.1%増加し、そのうち84.5%にあたる2,387億円をコミックが占めております。昨年の同研究所の「電子書籍ビジネス調査報告書2018」では、2018年度の電子書籍市場規模の予測は、2,550億円であったことから、予測を大きく上回る結果となっております。また、2023年度には2018年度の約1.5倍の4,330億円に拡大すると予想されています。

また当社が注力するIoT事業は、コンピュータ等の情報・通信機器だけではなく、世の中に存在する様々なモノに通信機能を持たせ、インターネットへの接続や相互に通信させる分野として注目を集めております。インターネット技術や各種センサー・テクノロジーの進化等を背景に、インターネットにつながるモノ(IoTデバイス)の数は、2017年の約274億個から2021年にはその約1.6倍の447億個まで増加すると予測されております(総務省「令和元年版情報通信白書」)。

このような経営環境の中、当社は、「日常に&を届ける」をミッションとして掲げ、Smartphone APP事業においては、主に大手出版社と共同開発したスマートフォン向けのマンガアプリの収益拡大に注力してまいりました。IoT事業においては、宿泊領域のテクノロジー化を事業方針として、スマートホテル『&AND HOSTEL』の outlet に注力するとともに、宿泊管理システム『inn-to』、客室タブレットサービス『tabii』等宿泊施設向けのIoTソリューションサービスの提供を展開してまいりました。

以上の結果、当事業年度における売上高は802,311千円(前年同期比70.9%増)、営業利益37,201千円(前年同期比12.3%減)、経常利益36,595千円(前年同期比1.6%減)、四半期純利益19,863千円(前年同期比20.9%減)となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

① Smartphone APP事業

当第1四半期累計期間において、「マンガUP!」、「マンガPark」、「マンガMee」など既存マンガアプリについては、積極的な広告宣伝の実施、新規連載開始等によるMAU(注1)の増加、人気コンテンツの掲載延長、作品追加及びARPU(注2)の向上によって、サービス提供を開始して以降、好調に推移しております。2019年8月にリリースした株式会社小学館と共同開発したマンガアプリ「サンデーうぇぶり」は、リリース以降、着実にMAUが増加しており、当社の収益に貢献しております。また、2019年10月に新たに提携した株式会社アムタスとの新規マンガアプリ「めっちゃコミック」及び2019年11月にリリースした株式会社日本文芸社と共同開発したマンガアプリ「マンガTOP」について、開発に係る売上を収受しております。

この結果、当第1四半期累計期間におけるSmartphone APP事業の売上高は649,684千円(前年同期比64.9%増)、セグメント利益は128,409千円(前年同期比3.2%増)となりました。

(注) 1. Monthly Active Userの略称であり、1ヶ月に一度でもアプリを利用したユーザーの数を指します。

2. Average Revenue Per Userの略称であり、ユーザー一人当たりの収益単価であります。

当社のSmartphone APP事業において運営するスマートフォンアプリのうち、「マンガアプリ」及び「最強シリーズ」の四半期毎の平均MAU数の推移は下表のとおりであります。

(単位：万人)

年月	平均MAU数	
	マンガアプリ	最強シリーズ
2015年11月末	—	26
2016年2月末	—	25
2016年5月末	—	25
2016年8月末	—	26
2016年11月末	—	59

2017年2月末	—	70
2017年5月末	31	71
2017年8月末	65	67
2017年11月末	108	92
2018年2月末	150	70
2018年5月末	204	53
2018年8月末	238	47
2018年11月末	279	51
2019年2月末	362	39
2019年5月末	430	30
2019年8月末	532	29
2019年11月末	641	27

(注) 上記の平均MAU数は、各四半期における平均値を記載しております。

② IoT事業

当第1四半期累計期間において、当社が注力するIoT体験型宿泊施設であるスマートホテル『&AND HOSTEL』の企画、開発が進み、ホテル開発に係るコンサルティングや不動産の仲介等の売上が順調に推移いたしました。当第1四半期累計期間においては、新たに「&AND HOSTEL KURAMAE WEST」「&AND HOSTEL SHINSAIBASHI EAST」「&AND HOSTEL MINAMISENJU」の計3店舗を開業し、累計11店舗となりました。

客室タブレットサービス『tabii』は、協業パートナーであるH. I. S. ホテルホールディングスや東京電力エナジーパートナーとの連携強化や当社営業人員の強化を図り、また「業務効率化」「付加価値向上」のため、機能開発を積極的に行ってまいりました。その結果、当第1四半期会計期間末における累計導入台数は、3,713台（前期末比860台増）となりました。

宿泊管理システム『innto』について、当第1四半期会計期間末における施設数は295施設（前期末比63施設増）に増加しました。一方で、&AND HOSTELの開業準備費用、『innto』『tabii』の展開規模拡大に伴う拡大費用等、積極的な投資を行ってまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間におけるIoT事業の売上高は123,530千円（前年同期比86.8%増）、セグメント損失は13,814千円（前年同期は23,517千円の損失）となりました。

③ その他事業

当第1四半期累計期間は、インターネット広告の代理サービスを中心に事業を行った結果、その他事業の売上高は29,096千円（前年同期比212.4%増）、セグメント利益は6,785千円（前年同期比14.6%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は3,054,437千円となり、前事業年度末に比べ14,201千円増加いたしました。これは主に売掛金が90,404千円、仕掛販売用不動産が152,109千円、立替金が66,785千円増加したこと、一方で現金及び預金が299,689千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債合計は1,223,924千円となり、前事業年度末に比べ18,187千円減少いたしました。これは主に未払金が39,474千円、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）が82,276千円増加したこと、一方で買掛金が11,218千円、納付に伴い未払法人税等が94,361千円、流動負債の「その他」に含まれる「未払消費税」が34,336千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間における純資産は1,830,512千円となり、前事業年度末に比べ32,389千円増加いたしました。これは主に四半期純利益の計上により利益剰余金が19,863千円増加したこと等によるものであります。

なお、自己資本比率は59.9%（前事業年度末は59.1%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の業績予想につきましては、2019年10月11日に公表した通期業績予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年8月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,352,934	1,053,245
売掛金	484,044	574,449
仕掛品	7,880	1,622
仕掛販売用不動産	276,102	428,212
前払費用	20,902	33,099
立替金	278,451	345,236
その他	32,521	46,475
流動資産合計	2,452,838	2,482,341
固定資産		
有形固定資産		
建物	64,992	58,983
工具、器具及び備品	44,838	48,798
建設仮勘定	1,922	—
減価償却累計額	△35,249	△46,042
有形固定資産合計	76,503	61,738
無形固定資産		
ソフトウェア	129,520	121,072
ソフトウェア仮勘定	807	15,628
無形固定資産合計	130,327	136,700
投資その他の資産		
投資有価証券	78,597	78,597
繰延税金資産	28,194	28,194
その他	273,775	266,865
投資その他の資産合計	380,566	373,656
固定資産合計	587,398	572,095
資産合計	3,040,236	3,054,437

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年8月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	98,301	87,082
短期借入金	65,000	65,000
1年内返済予定の長期借入金	339,093	434,295
未払金	400,872	440,347
未払法人税等	108,757	14,395
賞与引当金	—	11,998
株主優待引当金	10,296	1,118
その他	72,396	35,218
流動負債合計	1,094,717	1,089,455
固定負債		
長期借入金	147,395	134,469
固定負債合計	147,395	134,469
負債合計	1,242,112	1,223,924
純資産の部		
株主資本		
資本金	543,263	549,066
資本剰余金	542,174	547,782
利益剰余金	713,138	733,001
自己株式	△452	△452
株主資本合計	1,798,123	1,829,398
新株予約権	—	1,114
純資産合計	1,798,123	1,830,512
負債純資産合計	3,040,236	3,054,437

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2018年9月1日 至2018年11月30日)	当第1四半期累計期間 (自2019年9月1日 至2019年11月30日)
売上高	469,522	802,311
売上原価	208,297	336,476
売上総利益	261,225	465,834
販売費及び一般管理費	218,829	428,633
営業利益	42,395	37,201
営業外収益		
受取利息	6	17
事業譲渡益	2,000	—
保険解約返戻金	—	743
その他	50	265
営業外収益合計	2,056	1,026
営業外費用		
支払利息	644	964
株式交付費	5,238	—
投資有価証券評価損	1,009	—
支払手数料	—	606
その他	351	61
営業外費用合計	7,244	1,632
経常利益	37,207	36,595
特別損失		
減損損失	—	6,409
特別損失合計	—	6,409
税引前四半期純利益	37,207	30,186
法人税等	12,102	10,322
四半期純利益	25,105	19,863

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実行税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2018年9月1日 至 2018年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	Smartphone APP 事業	IoT事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	394,084	66,123	460,207	9,314	469,522
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	394,084	66,123	460,207	9,314	469,522
セグメント利益又は損失(△)	124,469	△23,517	100,952	5,923	106,875

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にインターネット広告代理及び記事制作に係る事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	100,952
「その他」の区分の利益	5,923
全社費用(注)	△64,479
四半期損益計算書の営業利益	42,395

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません

当第1四半期累計期間(自 2019年9月1日 至 2019年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	Smartphone APP 事業	IoT事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	649,684	123,530	773,214	29,096	802,311
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	649,684	123,530	773,214	29,096	802,311
セグメント利益又は損失(△)	128,409	△13,814	114,594	6,785	121,380

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にインターネット広告代理事業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	114,594
「その他」の区分の利益	6,785
全社費用(注)	△84,179
四半期損益計算書の営業利益	37,201

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「IoT事業」セグメントにおいて、&AND HOSTEL UENOの定期賃貸借契約の満了に伴い、店舗を閉鎖することが確定したため、当該資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、6,409千円であります。

(重要な後発事象)

1. 販売用不動産の取得及び資金の借入

当社は、2019年10月7日開催の取締役会決議に基づき、2019年12月5日に販売用不動産の取得及び資金の借入を実施いたしました。

概要は以下のとおりであります。

(1) 取得の目的

当該販売用不動産の取得は、当社のスマートホステル「&AND HOSTEL」事業における収益物件として取得するものであります。

(2) 販売用不動産（土地・建物）の内容

①所在地	東京都台東区
②構造	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根12階建
③用地面積	313.3㎡ (94.77坪)
④物件引渡日	2019年12月5日
⑤取得価格	(注)
⑥資金計画	借入により充当

(注) 取得の相手先の都合により、非開示といたしますが、当社の当第1四半期会計期間末の純資産の額の30%相当額を大きく上回る見込みであります。

(3) 資金の借入の概要

①借入先	株式会社みずほ銀行
②借入金額	1,200,000千円
③借入日	2019年12月5日
④借入利率	みずほTIBOR+0.5%
⑤借入期間	5年
⑥担保提供の有無	有

(4) 業績への影響

当該販売用不動産の取得による当期の業績に与える影響は軽微であります。

2. 販売用不動産の取得及び資金の借入

当社は、2019年12月13日開催の取締役会決議に基づき、2019年12月20日に販売用不動産の取得及び資金の借入を実施いたしました

概要は以下のとおりであります。

(1) 取得の目的

当該販売用不動産の取得は、当社のスマートホステル「&AND HOSTEL」事業における収益物件として取得するものであります。

(2) 販売用不動産（土地・建物）の内容

①所在地	大阪府大阪市中央区
②構造	鉄筋コンクリート造陸屋根8階建
③用地面積	301.5㎡ (91.21坪)
④物件引渡日	2019年12月20日
⑤取得価格	(注)
⑥資金計画	借入により充当

(注) 取得の相手先の都合により、非開示といたしますが、当社の当第1四半期会計期間末の純資産の額の30%相当額を大きく上回る見込みであります。

(3) 資金の借入の概要

①借入先	株式会社三井住友銀行
②借入金額	1,000,000千円
③借入日	2019年12月20日
④借入利率	基準金利+1.40%
⑤借入期間	20年
⑥担保提供の有無	有

(4) 業績への影響

当該販売用不動産の取得による当期の業績に与える影響は軽微であります。